

# 荒尾市の鳥 制定します！

## みなさんのご意見をお寄せください

市では、平成24年4月1日に市制70周年を迎えることから、豊かな自然を大切に育む心と郷土への愛着を深めることのできる象徴（シンボル）として、「市の鳥」を制定することにしました。

制定にあたっては「市の鳥選定委員会」を設置し、まず選定委員会で候補となる「鳥」15種類を選びました。どの鳥も、荒尾になじみの深い鳥です。この中から、皆さんがふさわしいと思われる「鳥」をふるってご応募ください。この投票結果を参考に市の鳥選定委員会で検討し、1種類を市長に推薦します。

なお、制定された市の鳥に応募いただいた人の中から、5人に記念品を贈呈します。

応募資格	荒尾市在住の人	
募集期限	平成24年1月31日（火）※郵送の場合、当日消印有効	
応募方法	持参の場合	市内12カ所に用意している投票箱に投票してください。 【投票箱設置施設】 市役所総合案内、人権啓発センター、メディア交流館、万田炭鉱館、みどり養生館、小岱工芸館、文化センター、中央公民館、エポック・荒尾、荒尾駅、あらおシティモール（出会いの広場・市民サービスセンター）また、市内各小・中学校、荒尾高校、有明高校にも設置します。
	郵送の場合	〒864-8686（住所不要） 荒尾市役所政策企画課「市の鳥募集」係
	FAXの場合	FAX64-0940
	Eメールの場合	arao-70th@city.arao.lg.jp ※件名を「市の鳥」としてください。
記載事項	・住所、電話番号、名前、年齢、鳥の番号と名称、選んだ理由 全てに記載してください。 ・候補として掲載している物の中から、ふさわしいと思う鳥の名称を記入してください	
発表	平成24年4月上旬開催の荒尾市制70周年記念式典で発表	

※応募者の個人情報は、目的以外には一切使用しません

※市内各所の投票会場とホームページにはカラーで鳥の写真を掲載しています。

政策企画課 ☎ 63-1274

### 荒尾市の鳥 投票用紙

市の鳥	番号	名称	選んだ理由
じゅうしょ住所	〒	TEL	<ol style="list-style-type: none"> <li>姿・形が美しいから</li> <li>鳴き声が美しいから</li> <li>市内でよく見かけるから</li> <li>市のイメージに合っているから</li> <li>その他（理由）</li> </ol>
フリガナ	荒尾市		
なまえ名前		年齢	
		歳	

### 荒尾市内で見ることができる鳥です 次の15種類の中から1種類を選んでください

旅鳥（たびどり）…渡りの途中、春秋に定期的に姿を見せる鳥 冬鳥（ふゆどり）…秋に来て冬を越し、春に去る鳥  
留鳥（りゅうちょう）…季節による移動をせず、一年中同一地域にすむ鳥 海…海で見ることができる鳥 山…山で見ることができる鳥



①シロチドリ 旅鳥 海  
冬鳥として渡来する旅鳥で、荒尾海岸には秋の渡りの時期と越冬期に400羽程が渡来する。「千鳥足」の語源となった鳥。荒尾海岸で唯一繁殖するチドリ。



②メダイチドリ 旅鳥 海  
荒尾海岸には春秋の季節に旅鳥として渡来するが、冬期に越冬もしている。食性は特にゴカイを好み、他にカニ、昆虫を食べる。クリリ、クリリと鳴く。



③ハマシギ 旅鳥 海  
荒尾海岸に渡来するシギ・チドリ類では最も多い種類で、春の渡り鳥では3,000羽を超す。秋には姿を見ない。しかし、冬期には2,000羽近くが渡来し越冬する。



④キョウジョシギ 旅鳥 海  
荒尾海岸では旅鳥として春期に多く渡来する。名前の「キョウジョ」は「京女」の音読み由来。古都の女性のように、あでやかな、ということからつけられたという。



⑤オオソリハシシギ 旅鳥 海  
春の渡りの季節に500羽前後が渡来する荒尾海岸を代表する鳥種。くちばしは長く、上に反っている。干潟の泥地の穴にくちばしを入れ、カニを捕食している。



⑥ユリカモメ 冬鳥 海  
冬鳥として渡来し、海岸や河口部で大きな群れが見られるが、河川をさかのぼって数十キロ程度上流の水辺で見られることも多い。この鳥は、東京都の鳥に指定されており、人懐こい。



⑦ズグロカモメ 冬鳥 海  
ユリカモメに似ているが、やや小さい。毎年、日本と中国の共同で荒尾海岸で越冬中のズグロカモメの調査が行われている。2009年冬期には、180羽が荒尾海岸に渡来した。



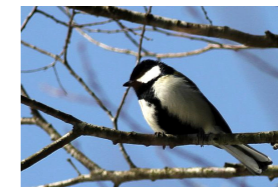
⑧ダイゼン 旅鳥 海  
1年中見られるが、春秋の渡りの季節に特に多く、越冬する個体も多いことから主に旅鳥または冬鳥と言える。荒尾海岸には春秋に旅鳥として渡来し、春期は500羽を数える。



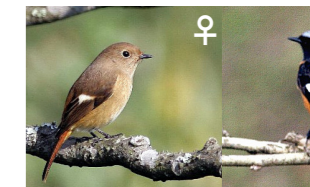
⑨ウグイス 留鳥 山  
さえずりは法華華経（ほーほけきょう）と聞き、例年2月上旬から中旬に初鳴きを聞く。留鳥で秋から早春は人家の庭など身近な環境に普通に生息する。春から夏は丘陵地から山地で繁殖する。



⑩ホオジロ 留鳥 山  
スズメよりやや大きく、顔の黒と白の模様が特徴。木のこずえや電線で胸を反らして高らかにさえずっている。農耕地、草地、林などに普通に生息し、繁殖している。



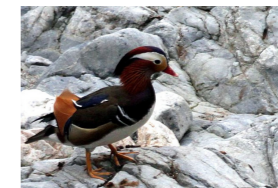
⑪シジュウカラ 留鳥 山  
冬はメジロやコゲラなどと群れになり森や林、公園、住宅地の庭木にもやってくる。食性は主に昆虫やクモなどの小動物。ヒマワリの種、ピーナツ、リードなども好物。巣箱で繁殖もする。



⑫ジョウビタキ 冬鳥 山  
地方名で「紋付（もんつき）さん」とか「ヒンコツさん」と、呼ばれ親しまれている。テレビアンテナなど目立つところにとまり、人を警戒せず、畑仕事をしていると近くまでやってくる。



⑬メジロ 留鳥 山  
留鳥として山地から低地の林に生息。目の周囲の白い輪が特徴。柔らかい木の実や花の蜜を好み、餌の少ない冬に、庭の餌台に置いたミカンにやってきて愛嬌をふりまく。



⑭オシドリ 冬鳥 山  
目の周りに白い「まが玉模様」がある。山間部のダム湖や河川に生息し、水辺の木の上、木陰で休息する。近年、荒尾市でも市街地に近い池で観察されるようになった。



⑮カワセミ 留鳥 山  
「空飛ぶ宝石」と呼ばれる野鳥。清流を代表する野鳥といわれたが、市内の池や川で見られるようになった。留鳥として、河川、湖沼、湿地などに生息している。